F-CON 迎撃!

F-CON 実行委員会

JAPAN SCIENCE FICTION CONVENTION #59 @FUKUSHIMA

PROGRESS REPORT Vol.004

第59回日本SF大会 F-CON

2021.03.13-14

FUKUSHIMA Bandai Atami Onsen Hotel HANANOYU

Illustration : SHIRONAGASU WORKS

第59回日本SF大会「F-CON」開催日程変更のお知らせ

みなさんこんにちは。世の中が大きく変動しておりますが、私たちは日程を改め、来年の東日本大震災から10年の節目に日本ＳＦ大会を福島で開催いたします。

本年（令和２年）の当初の予定８月22日～23日に開催予定の第59回日本SF大会「F-CON」ですが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止と参加者の健康安全を確保するため延期することを決定いたしました。新しい開催時期は2021年（令和３年）３月13日（土）14日（日）となります。
少し肌寒い時期の開催となりますので、もしかすると少し雪景色の見える貴重な日本ＳＦ大会になるかもしれません。
さて、大会にすでにお申し込みを頂いている方につきましては、そのまま参加資格を維持させていただきます。延期になり準備期間が増えた分、よりパワーアップした大会企画をお届けしようと、スタッフ一同努力しておりますので、引き続きご期待ください。
自主企画につきましても準備期間が増えましたのでより多くの企画提案をお待ちしております。
現在お申込のオプショナルツアーに関しましては、こちらもそのままお申し込みをスライドいたします。
ただ、残念ながら今回のロボットサミット見学ツアーはサミット開催日から日程が離れてしまいますので別のものに代替となります。
ツアーも準備期間が増えましたので、拡充を検討中です。復興関連施設の見学はそのままに、新しく追加ツアーも検討中です。また福島には、円谷英二ミュージアムや歴史的な名所など見所はたくさんありますのでこの機会に楽しんでいただける企画を考えたいと思います。詳しい変更内容は、追って告知いたしますので、しばらくお待ちください。
お申込済みの方で、新しい日程での参加は難しいということもあるかと思います。日程変更に伴い参加キャンセルにつきましても対応させていただきます。もちろん、現時点からの新規お申し込みも受け付けております。

現在星雲賞の投票を受け付け中です。2020年７月５日投票締切りとなっておりますので、まだ投票をしていない人はぜひ投票をお願いいたします。投票には参加番号が必要です。参加番号が届いていない人は事務局までご連絡下さい。星雲賞は当初の開催日程にて決定し発表の予定ですが、授賞式は３月の大会内にて行う予定です。

この困難な状況の中、皆様におかれましても手洗い・うがいなど感染防止策へのご理解とご協力を頂き、新しい開催日程にてお目にかかれることを心待ちにしております。何卒ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

第59回日本SF大会「F-CON」実行委員会

F-CON ESSAY 004

個性豊かな福島の酒【第二回】

浜通りを巡る物語――

坂本博紀

皆さんご機嫌いかがですか。「浜通りの地酒を楽しむ会」の坂本博紀です。

前回は福島県の地域ごとの食文化の特色と、酒蔵の傾向などについてお話しました。

今回からはそんな堅苦しい前段は終わっていよいよ酒蔵や酒の紹介をしていこうと思いましたが、ちょっと関連してご紹介したい出来事がありますのでそちらの方を先に紹介させていただきます。

福島県の浜通りを走る常磐線は、上野から仙台までをつなぐ福島県民にとっても重要な路線で２０１１年の東日本大震災以降、順次復旧はしてきていますが未だ全線開通とはいかず富岡から浪江間が不通区間でした。

それが令和２年の３月14日からついに全線開通となります。

避難指示エリアも解除されてきていますが帰還困難な高線量区域は相変わらず地域を分断しています。

常磐線の全線開通はとても喜ばしいことなのですが未だ復興の途上であるという印象はみなさんもＦ－ＣＯＮの前泊ツアーなどで身にしみて感じて頂けると思います。

さて、そんな嬉しい常磐線開通を迎えましてとある企画が動き出しました。

それは浜通りの３つの酒蔵の呑み比べセットを常磐線全線開通記念として出せないかという話でした。

３つの酒蔵が地域おこしで一つに繋がるというイメージがとてもよかったのでデザインを監修するという立場で僕も少し携わらせていただきました。

カップ酒３本のセットで各酒には担当地域の名物、名産などのイラストが描いてありますが特にそれが何であるか名前はあえて書きませんでした。

浜通りの地域がどこか指定してあるのでぜひ「あれだよね！」と当てたり人と話したりして楽しんで欲しいなと思ったからでした。

このお酒は３月14日からＪＲ関連の販

夜ノ森の桜

売店などで発売しますが、プログレスレポートをお読みの方はぜひこの酒セットを買っていただいて、イラストの解説とあわせてお楽しみ下さい！

勿来町から四倉町への旅

勿来町は北茨城市に隣接する福島県沿岸部いわき市の最南端です。

ここにはかつて「勿来の関」という関所が設けられその地名の勿来というのは「くるなかれ」という意味から来るものでした。中央の支配から遠い未開の地だったということですね。

ちなみに水戸黄門は常陸太田市にある西山荘に一部終わるごとに帰ったりしますが、その前後は大体「白河の関」を通っていくのであまりいわきには来ません。

山形県鶴岡市にある「鼠ヶ関」と３つあわせて奥州三関と言われますが「白河の関」以外はいまいちマイナーな感じです。

ですが有名な人がここで歌を詠んでいてその人がまずラベルに書かれています。

それが「源義家」です。別名八幡太郎義家とも呼ばれ１０８３年の〝後三年の役〟の際「勿来の関」を通ったときに「吹く風を勿来の関と思へども　道もせに散る山桜かな」と謡っています。

武士として有名なのに歌も風雅で地元ではとても愛されています。

ラベルにあるイラストの像はＪＲ勿来駅の前にあり、「勿来の関」には文学歴史館が併設され、桜の名所として今も有名です。

さらに寝殿造の建物、「吹風殿（すいふうでん）」は毎週末コスプレイヤーが集まる知る人ぞ知る撮影スポットになっています。（要申込）

「源義家」の時代からちょっと進んで１１６０年創建と伝わる、福島県唯一の国宝「白水阿弥陀堂」も素晴らしい歴史的建造物です。

国宝に指定されているのは阿弥陀堂自体ですがそのお堂の敷地に広がる見事な蓮池は夏に楽しめ、秋ごろはイチョウやモミジが美しく紅葉します。

ちなみに東北地方に現存する平安時代の建築物は有名な岩手県平泉町の中尊寺金色堂、宮城県角田市の高蔵寺阿弥陀堂とここのみだそうです。

仏像マニア向け情報として阿弥陀如来像を中心に、観音菩薩像と勢至菩薩像、持国天像、多聞天像があります。

像高はそんなに無いので迫力には欠けますが結構な至近距離で拝観でき、やはり現存の古いお堂で見られるのはとても良いと思います。

福島県唯一の歴史的建造物がもう一つ、いわきにあります。

それはいわき市平沿岸部の薄磯地区にある「塩屋埼灯台」です。

日露戦争前の１８９９年に地上から50ｍほどの場所に34ｍの大きな灯台が建てられ、建設当初は日本一の高さを誇っていました。しかし１９３８年の福島県東方沖地震で破損し立替られ、現在は27ｍの２代目の灯台が立っています。

実は去年この灯台は１８９９年から数え１２０周年を迎え様々なイベントが催されました。

その一環としてあの松本零士先生に灯台のイラストを寄贈してもらいました。

青空の塩屋埼灯台の後ろに９９９号が走り、メーテルと鉄郎がそれを見上げて

塩屋埼灯台

います。
受取の際には松本先生にインタビューをして灯台と幼少期の思い出を沢山きかせてもらいました。
ＧＰＳなどが発達した今、灯台の航路標識としての意味は次第に失われていきますが、松本先生は「灯台は大事なものなので永遠に立っていて欲しい」と力強く語ってくれました。

国民的アニメ作品に関することで言えばもう一つ、重要な劇場作品のモチーフになったものがラベルに描かれています。
それは「フタバスズキリュウ」で「ドラえもん のび太の恐竜」のピー助のモデルです。
国土の小ささから大型爬虫類が発見されないと思われていた１９６８年に当時高校生だった鈴木正さんがいわき市大久町で発見しました。
男の子なら誰もが抱く恐竜への憧れですが、新種を発見して名前を付けるという夢の体現者として科学的、ＳＦ的にも重要な出来事なのではないでしょうか。
ちなみに「のび太の恐竜」は「モスラ対ゴジラ（１９６４年）」のリバイバル上映時の併映作品で「モスゴジ」の特技監督はもちろん円谷英二です。

しかも「モスゴジ」のポスターは松本先生が描いていたという……。すごいですね。

久之浜町から双葉町への旅

先に紹介した「フタバスズキリュウ」の発見地は、この区間の久之浜町の内陸部の大久町で、そこにはアンモナイトが多数出土した場所にそのまま建物を建てたアンモナイトセンターがあります。全国でも珍しい体験化石発掘施設で特筆すべきは出土した化石をそのまま持って帰って大丈夫というところです。（一部例外有り）
ここの発掘現場はノミとハンマーを持たずにブラブラしているだけでイノセラムスという二枚貝の化石を拾えたり、結構高確率でサメの歯やコハクが発掘できます。
もし何も発掘できなくても海外産の化石も買って帰れるので安心です。
掘り当てた化石の保存方法も丁寧に教えてくれるので大変人気の施設です。

アンモナイトの下に描かれている赤いお椀ですがこれは「ママーすいとん」と言います。
双葉郡楢葉町の郷土料理「すいとん」を名物料理にしようと始ったなかでサッカーのトレーニング施設「Ｊヴィレッジ」に来ていた当時の日本代表監督フィリップ・トルシエ氏が故郷のおばあちゃんの味に似ていることから「ママーすいとん」と名づけました。

２００２年の日韓ワールドカップの際はアルゼンチン代表の宿泊地となり当時はアルゼンチン人を見かけた地元民がフーリガンだと通報するという微笑ましいニュースもありました。
原発事故対応拠点になり有名になった「Ｊヴィレッジ」ですが２０１９年４月には完全営業再開、「Ｊヴィレッジ駅」という新駅も設けられももクロのコンサートも開催されました。

ラベルの下部に描かれる岩と橋は「波立薬師の弁天島」で海に突き出た岸壁が島の形を成していて小島には鳥居が設けられています。橋があり小島に渡ることもできますが波が高いときは危ないです。
このようなロケーションから塩屋埼灯台と並び県内屈指の初日の出スポットとなっています。ローカル局の新年ＣＭは大体「波立薬師」か「塩屋埼灯台」です。
ちなみにここの海岸の海水浴場は去年９

年ぶりに開設されましたが、普通の砂浜の海岸ではなく特徴的な玉砂利のような海岸です。

夏真っ盛りのカンカン照りのときは足の裏が焼けます。磯がよく出るので潮干狩りにも大人気ですが、玉砂利を持ち帰ると眼病を患うという恐ろしい話があり、子供も大人もビクビクしながら靴に入った砂利を出して帰ります。

５月ごろには紫色のハマエンドウが咲きたいへん綺麗です。

震災で流され大分減っていたのですが地元の方が地道に増やしてくれているそうです。

福島県浜通りの花といえば真っ先に出るのが「夜ノ森の桜」ではないでしょうか。

原発事故により「夜ノ森」のある富岡町が分断され誰も見ることなく咲き誇る桜がよくニュースに出ていたのでご存知の方も多いかと思います。

１９００年頃に植えられた歴史の古い桜の並木は本当に息を呑む美しさでぜひ、機会があればご覧になって欲しいです。

ちなみに地名の「夜ノ森」ですが磐城平藩領と相馬中村藩領の境で領土を争って「余ノ森」と主張したのが由来だそうです。近くにはまた別の領土争いがルーツの「小良ヶ浜」という場所もあります。

富岡駅にはツツジも沢山植えられていて車両とともに絶好の写真スポットです。

浪江町から相馬郡への旅

この区間には大変有名で勇壮なお祭り「相馬野馬追」があります。

ムリヤリＳＦとくっつけようとすると、このお祭りのルーツはあの「平将門」の騎馬訓練だと言われています。

「平将門」と言えば「帝都物語」、実相寺昭雄監督の映画で「平将門」の声を演じたのはいわき市出身の声優でガンダムのリュウ・ホセイでおなじみの飯塚昭三さんです。岩の底から聞こえてくるような声が印象的です。

相馬中村藩を治めていた相馬氏はもともと桓武平氏の流れを汲み、南北朝時代から伊達氏佐竹氏に挟まれた時代、西軍寄りと徳川に目された関ヶ原以降もなんとか幕府に取り成してもらい実に長い時代を生き抜いた大名です。

ラベルの右上に描かれている「大堀相馬焼」は相馬中村藩の元禄年間に浪江町大堀で興った民陶で馬の絵柄や二重構造が特徴です。

がっちりしたつくりで素朴な色使い、

請戸港出初式

請戸の田植踊り

二重構造の冷めにくさなどの特徴がありわりとどこのお宅にも普通にある焼き物でした。

原発事故でこの大堀地区は帰還困難区域に指定され窯元は避難を余儀なくされましたが、さまざまな地域でこの大堀相馬焼を復活させようと作陶活動を続けています。

二重構造を活かし器の形を変えることで酒の味の変化を楽しむ器などアグレッシブな取り組みも行われ注目されています。

そしてその「大堀相馬焼」の器が無いと語れないのが「なみえ焼きそば」です。２０１３年のＢ－１グランプリで念願の一位を獲得しこの地域を牽引するご当地フードの一つとなっています。

うどんかと見紛うばかりの太さの麺に、具がもやしと豚肉だけというシンプルな焼きそばですが、腹持ちがよくて味も濃く、食べ応えがあります。

ラードを使って焼くところに特徴があり、冷めるとラードが固まってしまうので是非出来立てを食べて頂きたいです。

カップめんとかコンビニ麺化は時たましているのですが、旭屋さんの麺とソースのセットを買って自分で作るのが一番お勧めです。

「なみえ焼きそば」の下に描かれているのは「請戸の田植え踊り」です。

津波で大きな被害のあった浪江町請戸地区の苕野（くさの）神社の「安波祭」に奉納される踊りで江戸時代から続いています。地域が被災し、踊り手や氏子が分散してしまい存続が危ぶまれましたが丁寧に文化の継承が行われ、踊りつがれています。

その下に描かれている細い建物は原町無線塔です。１９２１年から１９８２年まで原町に立っていた２００ｍという超巨大な電波塔で当時はアジアで一番高い建築物でした。

１９２３年の関東大震災時にはサンフランシスコに第一報を打電、世界がその被害を知ることとなりました。

さて、ここまで様々な浜通りのものを紹介してきたのも常磐線の全線開通によってこういった福島県浜通り地域の魅力あるモノがやっと結びつく嬉しさからでしたが、昨今の新型コロナウィルス影響で震災関連のイベントや観光施設の運営に影を差している状況です。

とにかく今は感染拡大防止につとめるのが第一であまり先のことをお願いできる状況でもありませんが、

来年３月のＦ－ＣＯＮ開催に向けて今は多くのお客さんに来てもらい福島の魅力にもたくさん触れて帰って欲しいと思いながら企画を考えていきますので、よろしくお願いします！

次回からはやっといよいよ酒蔵の紹介をしていきます！

来の関跡
（磐城七浜ワダツミセブン第２話撮影時）

自主企画絶賛募集中！

SF大会の楽しみの大きな部分に自主企画があります。参加経験のある方はすでにご存じでしょう。それが自主企画です。
大会側が準備する公式企画ではない参加者自身が企画運営する「自主的なプログラム」です。自分の好きなことを語ったり、ファンクラブの集会だったり同好の士を集めたり自主展示をしたりと自由な空間を作り上げます。ゲストを呼んでもいいし、一つの作品について語り合ってもいい。徹夜でもOK。
そんな自主企画をあなたも企画してみませんか。ぜひお待ちしております。

ご応募は、下記のフォームをコピーしてメール頂くか、公式サイトの応募フォームから送信して下さい。

応募フォーム

□企画名［　　］
□企画内容［　　］
□企画責任者［　　］
□Ｅメールアドレス［　　@　　］
□電話番号［　　］
□参加ゲストの有無　ゲスト有りの場合ゲスト名［　　］
□参加予想人数［　　］名
□場所の希望［会議室／座敷（大広間含む）／自分の部屋］
□質問［　　］

公式企画

基調講演

SFから見る福島の未来
ZABADAKライブ
偽科学シンポジウム
加藤直之のVRでお絵描き＆VR作品鑑賞会
乗用ドローン試乗展示会
統合医療とSF／名作SFと現代科学
大規模津波災害にSF的防衛対策を考えてみた。
オンラインゲーム企画／VRの今
テルミンvsテスラコイルギターバトル
話題のアニメ監督対談「どんなSFに影響を受けたか」
SFアニメ上映会（作品選定中）
ラノベ作家企画
「軌道エレベーター」プレゼンテーション

※企画は検討中のものです。

ボランティアスタッフ募集

企画スタッフ（参加者から募集）

企画段階から協力できるかた。
対外交渉もしていただく可能性があります（協力企業との連絡など）。
LINEでの連絡やLINE通話会議に参加できることが望ましい。

当日スタッフ（参加者から募集）

当日の機材準備や受付など、メインスタッフの指示にしたがって動いてくださるかた。
一日目のみ、二日目のみ、両日とも、などのご希望に沿います。
宿泊されるかたは夜の企画もお手伝いいただきます。

現地スタッフ

大会に参加はしないけれど、当日日中のスタッフとしてご協力いただけるかた。
宿泊や夕食はご提供できませんので、夕食前には作業終了となります（時間的に中高生もOK）。
一日目のみ、二日目のみ、両日とも、などのご希望に沿います。

その他のご説明

① 大会を円滑に運営することがスタッフの役目ですので、ご希望の企画を見られるとは限りません。シフトを組む際にはなるべくご要望を叶えたいとは思っておりますが、どうしても見たい企画があるのでしたら、「その企画の担当をする」と名乗りを上げる、または個人対個人で直接シフトを交代する（この場合、必ずメインスタッフに申し出てください）などの工夫をお願いします。

② 得意なこと（ステージ進行ができる、対企業で丁寧な事務応対ができる、機材のセッティングができる、Excelなどでデータ管理ができる）等々ありましたら、どうかお知らせくださいませ。

③ 当日スタッフ、現地スタッフに関しては、イベント開催未経験者でも充分にご活躍いただけます。例を挙げれば、「受付をするので、これとこれをチェックしてこれを渡す」、「いまからこのゲストを企画部屋まで誘導する」「この部屋にこの機材が揃っているかチェックする」などです。

以上を踏まえまして、これまでご登録いただいていた種別を変更される場合は、大会メール sffcon@gmail.com まで（IDのわかるかたはそれも添えて）ご連絡ください。

なお、現状ではメインスタッフ（直接運営する幹部）間で各種の調整をおこなっております。
企画スタッフの方々には、のちほど詳しい役割等をご連絡いたします。
当日・現地スタッフのみなさんは、具体的なお仕事内容が決まるのがまだ先になりますので、それまで楽しみにお待ちくださいませ。

みなさんのお力で福島を、そしてF-CONを盛り上げたいと思っております。
ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

ご応募は、下記のフォームをコピーしてメール頂くか、公式サイトの応募フォームから送信して下さい。

応募フォーム

□氏名［　　］　□年齢［　　］
□住所［　　］
□Eメールアドレス［　　@　　］
□電話番号［　　］
□希望するスタッフの種類
　① 企画スタッフ（大会参加者で、準備段階から企画にかかわるお仕事をしていただきます。場合によっては対外交渉をしていただく可能性もあります）
　② 当日スタッフ（大会参加者で、当日の受付や機材位置など簡単なお仕事を指示に従ってしていただきます）
　③ 現地スタッフ（大会には参加せず、夕食前には作業終了となる簡単なお仕事を指示に従ってしていただきます）
□当日スタッフ・現地スタッフの協力日
　① 1日目【3/13（土）】　② 2日目【3/14（日）】　③ 2日間共【3/13（土）、14（日）】
□質問［　　］

大会概要

開催日　2021年（令和3年）3月13日（土）～14日（日）
前泊3月12日（金）、後泊3月14日（日）

開催場所　〒963-1309 福島県郡山市熱海町熱海5丁目8-60「ホテル 華の湯」
http://www.hotelhananoyu.jp/

大会形式　1泊2日の完全合宿型ですが、当日の日帰り参加も可能です。
改装したばかりの豪華な会場を、ホール・会議室・居酒屋までふんだんに使い、数多くの企画を提供します。また、企画によっては、各部屋や野外が会場になります。

主催　第59回日本SF大会「F-CON」実行委員会　**特別協力**　木下グループ　**協力**　ホテル 華の湯

前泊・後泊　「ホテル華の湯」にご宿泊いただく前泊後泊企画があります。

タイムスケジュール（調整中）

3月13日(土)大会1日目

12時頃	プレイベント開始
13時	宿泊参加者受付開始
14時	当日参加者受付開始
15時	開会式
16時	星雲賞受賞式
16時以降	各種シンポジウム企画を開始 ディーラーズルーム、展示企画開始 公式企画、自主企画等開始
18時	夕食開始（時間内で随時）
18時以降	夜の部として各種企画開始
21時	当日参加者退場
深夜にかけて	宿泊参加者による 各種企画が多数開催されます

3月14日(日)・大会2日目

6時頃	プレイベント開始
7時	朝食（時間内で随時）
9時以降	企画開始・当日参加者受付開始
10時より	各種シンポジウム企画開始
13時より	メインホールにてメイン企画
15時	閉会式

オプショナルツアー

オプショナルツアーは、観光バスを使用します。
各ツアー先着順となりますので、満席の場合はキャンセル待ちとなります。

~~前泊オプショナルツアー~~　**[定員に達しましたが、企画検討中]**
~~ふくしま復興関連施設見学ツアー~~
~~参加者には事前に身元登録をお願いします。正式申込後のキャンセルはお受け出来ません。~~
~~3月12日（金）午前9時・郡山駅集合 ➡ 同日夕方・華の湯着（昼食付き）~~

後泊オプショナルツアー（企画検討中）

ワールドロボットサミットを見学予定だった前泊ツアーBコースは
今回の日程変更により中止とさせて頂きます。
復興関連施設ツアーは予定通り施行予定です。
後泊ツアーに関しては、現在検討中です！

参加料金と申込ガイド

参加費一覧

宿泊参加費			
参加区分	料金(税込)	星雲賞投票権	会場入場
大人(18歳以上)	¥30,000	○	○
中人(中•高生)	¥20,000	○	○
小人(小学生)	¥12,000	○	○
幼児(3歳以上)	¥8,000	×	○
乳児(2歳)施設使用料(食事なし)	¥3,300	×	○
2歳未満(食事なし)	無料	×	○
介助者•ヘルパー	¥16,000	×	○

前泊(12日)／後泊(14日)費(共通)	
参加区分	料金(税込)
大人(中学生以上)	各¥15,000
小人(小学生)	各¥10,000
幼児(3歳以上)	各¥7,500
乳児(2歳)施設使用料(食事なし)	各¥3,300
2歳未満(食事なし)	無料
介助者•ヘルパー	各¥15,000

オプショナルツアー参加費	
前泊オプショナルツアー(12日)	¥5,000
後泊オプショナルツアー(15日)	¥5,000

日帰り参加費					
	参加区分	日帰り両日料金(税込)	日帰り一日料金(税込)	星雲賞投票権	会場入場
事前申し込み	大人(18歳以上)	¥12,000	¥6,500	○	○
	中人(中•高生)	¥3,000	¥1,500	○	○
	小人(小学生)	無料	無料	○	○
	未就学児	無料	無料	×	○
	介助者•ヘルパー	無料	無料	×	○
当日券	大人(18歳以上)	¥13,000	¥7,000	×	○
	中人(中•高生)	¥3,500	¥2,000	×	○
	小人(小学生)	無料	無料	×	○
	未就学児	無料	無料	×	○
	介助者•ヘルパー	無料	無料	×	○

登録参加費	¥4,000	○	×

【日帰り参加の方の入場可能時間】

3月13日（土）15時～21時（14時受付開始）
3月14日（日）9時～15時（9時受付～閉会式終了まで）

※日帰り料金を改定致しました。
既に申込された方につきましては返金処理を致します。

○ 介助者・ヘルパーは障害者手帳提示をお願いします。要介助者一名につき、一名までが原則です。
○ 登録参加は、大会自体には参加できません。プログレスレポートや当日の配布物の受け取り・星雲賞の投票資格は得られます。
○ ゲストの皆さんには別途案内をいたします。

お食事について

【宿泊参加の方】 1日目（13日）の夕食（ブッフェ形式）と、2日目（14日）の朝食が付きます。
【当日参加の方】 両日とも、お食事は付きません。ご希望の方には参加料と別料金にて提供致します。
1日目（13日）の夕食ブッフェチケット：4,000円（数量限定）
または、館内食事処などで軽食をご利用頂けます。
【23日の昼食】 宿泊参加者、当日参加者共に有料にて提供致します。
昼食ブッフェチケット：2,500円（数量限定）／お弁当販売：1,000円程度（調整中）
【前泊・後泊】 夕食（ブッフェ形式）と朝食が付きます。
【オプショナルツアー】 昼食をご用意致します。

お支払い方法

お振込先　ゆうちょ銀行
ゆうちょから　18210-39714131
他行より　（店名）八二八店（店番）828（普通預金）3971413
口座名義　エフコン実行委員会　会計　ワタナベヤエコ

クレジットカード、コンビニ払い、Pay-easy決済の場合
公式ウェブサイトからお申し込み下さい。

キャンセル、申込内容の変更について

事務局までメール等にてご連絡ください。➡ sffcon@gmail.com
ご返金処理等に関しては、個別に御案内致します。

磐梯熱海温泉「華の湯」への道

関東と関西を起点とした会場までの主なルートです。
費用に関しては、購入時期や旅行会社等により異なります。
また、移動時間は目安です。

東京発 from TOKYO

新幹線　約2時間　8,780円

東京駅 →（東北新幹線 約1時間20分）→ 郡山駅（乗り換え）→（磐梯西線快速 約14分）→ 磐梯熱海駅 →（送迎バス タクシー 約8分）→ 磐梯熱海温泉「ホテル華の湯」

自家用車　約2時間40分　通常5,590円/ETC3,910円

浦和IC →（浦和IC（東北道）➡郡山JCT（磐梯道）➡磐梯熱海IC出口 約2時間半）→ 磐梯熱海IC →（一般道 約10分）→ 磐梯熱海温泉「ホテル華の湯」

大阪発 from OSAKA

新幹線　約5時間　約21,500円

新大阪駅 →（東海道新幹線 約2時間半）→ 東京駅（乗り換え）→（東北新幹線 約1時間20分）→ 郡山駅（乗り換え）

夜行バス　約10~12時間　約8,000~16,000円

大阪市内 →（各社 約10～12時間）→ 郡山駅

郡山駅 →（磐梯西線快速 約14分）→ 磐梯熱海駅 →（送迎バス タクシー 約8分）→ 磐梯熱海温泉「ホテル華の湯」

航空機　【リムジンバス】約3時間　約8,500~16,000円
【レンタカー】約2時間半~3時間
約6,500~14,500円+レンタカー代

伊丹空港 ITM →（ANA/IBEX 約1時間5分）→ 福島空港 FKS →（リムジンバス 約40分）→ 郡山駅

伊丹空港 ITM →（ANA/IBEX 約1時間5分）→ 福島空港 FKS →（レンタカー（東北自動車道経由） 約45分）→ 磐梯熱海温泉「ホテル華の湯」

自家用車　約8時間　通常16,620円/ETC11,420円

吹田IC →（吹田IC（名神）➡米原JCT（北陸自動車道）➡長岡JCT➡新潟中央JCT（磐梯自動車道）➡磐梯熱海IC出口 約8時間）→ 磐梯熱海IC →（一般道 約10分）→ 磐梯熱海温泉「ホテル華の湯」

磐梯熱海温泉「ホテル 華の湯」
〒963-1309 福島県郡山市熱海町熱海5丁目8-60
http://www.hotelhananoyu.jp/

スタッフ会議

東京、大阪にてスタッフ会議を行っています。
開催日時、会場などは、公式サイト、ツイッター等で告知します。
事前連絡、申し込みなどは不要ですので、
参加希望の方は会場まで直接おいで下さい。

奥付

SNSでは随時情報を告知していきます。
なのでフォローやイイネをお願いします。
ここでの質問などにもお答えしていきます。
なるべく迅速に！　頑張ります。

twitter
https://twitter.com/SF_FCON

Facebook
「F-CON」イベントページ

［企画・発行］　〒963-7725
福島県田村郡三春町大字鷹巣字瀬山213番地
株式会社福島ガイナ内
第59回日本SF大会「F-CON」実行委員会
［問い合わせメールアドレス］ sffcon@gmail.com　［公式サイト］ https://sf-fcon.com